

三愛 ビュー view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



「コロナ禍の作業療法 (OT) について」

作業療法課 課長 江戸 晶子

新型コロナウイルス (COVID-19) の報を初めて聞いてから 2 年が過ぎようとしています。三船病院では患者職員が一緒になって感染防止に取り組み、またワクチン接種も進んだことでこれまで院内感染することなく今日に至っています。しかし、ここにきて第 6 波がかつてない勢いで日本列島を席卷し、香川県でも新規感染者が過去最多を更新する日々が続いており病院周辺の感染拡大も予断を許さない状況です。

当院での COVID-19 に対する感染対策は 2020 年 2 月から“院内に持ち込まない”そして“拡げない”ために病院にかかわる方に対して体調確認、検温、マスクの着用、手洗い手指消毒のお願い、環境に対しては換気、ソーシャルディスタンスの確保、アルコール消毒などを徹底して行っています。施設構造、患者様の疾患、作業療法 (OT) など治療活動を集団で行うという特徴から精神科病院での感染対策は難しいと思われましたが、基本的な感染対策と、患者様の外出や外泊、面会の制限、そして職員も不要不急の外出を控えた自粛生活を続けることで感染を回避してきました。しかし、長引く「コロナ禍」により、季節のイベントや行事のほとんどが内容の変更や中止を余儀なくされ、非日常の楽しみまでもが損なわれています。また感染に対する緊張の連続で平穏な生活が脅かされるなど、そのストレスは計り知れません。患者様個々の精神身体含めた健康管理に医療スタッフがより丁寧に関わっていかねばならないと感じています。

そこで、「コロナ禍での作業療法 (OT)」についてですが、「人を集める」「人と人の距離を十分保つことが難しい」「マスクの着用の徹底が難しい」「発声、歌唱など飛沫が拡散する」「道具を共有する」など OT には感染拡大を招くリスクがあります。仮に一旦院内に感染が起こると現状のような OT は感染収束まで実施することは難しいでしょう。しかし、不安やストレスを抱えながら療養している患者様にとって、①孤立を防ぐ、②生活のリズムを保つ、③運動や好きな作業 (活動) に取り組むことは健康を保つために重要なポイントであり、OT は「コロナ禍」においても必要な治療活動です。病棟では看護師により療養環境の感染防止対策が徹底され定期的な換気、同じ方向に向いてのテーブル配

置、パーティションの設置、環境のアルコール消毒が行われています。加えて OT 活動時には、活動前後の手指消毒、マスクの着用確認、対面を避けてできる限り隣の人との距離をとる配置、使用する道具の消毒、パーティション設置、一か所に集まる人数の制限を設け活動場所を分けるなど作業療法士は状況に応じて感染対策を行い、ニーズに合わせた OT の提供に努めてきました。どれだけしても十分とは言えない感染対策ですが、引き続き正しい知識を基に楽観視することなく慎重に感染対策し、患者様にもご理解とご協力を得て安心して OT 活動に参加してもらうことが大切だと考えています。これまでの間何度か OT 活動の感染対策上の問題提起が他職種からなされました。時には、活動を中止したり、実施方法の再検討も行いました。多くの眼で“みられる”ことは緊張とともに心強く、その都度皆で話し合い、意見を出し合うことで改善に結びつけることができ、活動継続できることはありがたく感じています。

想像を超え幾多の変異を繰り返しながら広がりつつある COVID-19 との戦いはまだまだ続きそうです。新しい知識や情報を基に、3 回目のワクチン接種など必要な対策を行いつつ感染防止の 3 つの基本、①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い、そして「3 密 (密集、密接、密閉)」の回避を念頭に置いてこれからも自らの行動に責任を持って一人ひとりができることを積み重ねて、平穏な日々が戻るまで頑張っていきたいと思えます。





「嗜好調査について」

栄養管理課 課長 岡 浩実

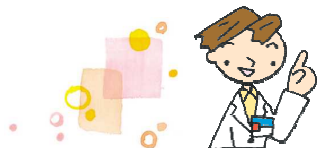
当院では入院患者様を対象に、年2回の嗜好調査を実施しています。患者様の嗜好や現在の食事に対する不満の状況を把握し、献立作成・調理方法・食事提供の方法などを見直し、食事に対する満足度を向上させることが目的です。

調査方法は管理栄養士による病棟での聞き取り方式と、アンケート用紙に記入していただく方式の2種類です。調査内容は、現在の食事の種類、主食について(味・量など)、主菜・副菜について(味・量・盛付など)、好きな料理、嫌いな料理、美味しかった料理、美味しくなかった料理、その他のご意見を調査します。2021年度の第1回目は7月に実施し、191名の患者様からご意見をいただきました。

結果は栄養管理委員会で報告し、献立内容、調理方法、味付けなどについて検討するため給食委託会社と結果を共有して定期的に話し合いを行います。また嗜好調査以外に、病棟訪問時や意見箱への投書で給食に対するご意見をいただくこともあります。ほとんどが希望献立についてですが、食事時間に各病棟へ訪問すると「このおかずの組み合わせは良くない、副菜はあっさりした物にして」「今週が好きな献立が多い」「昨日のカレーは

美味しかった」「この肉硬いなあ、味付けはええけど焼きすぎ?」「この前は酢の物がすっぱかったけど、今日は丁度ええわ」「お好み焼きしてくれてありがとう、またしてな」など様々な感想を患者様からお聞きします。最近では新型コロナウイルス感染症予防対策による外出・外泊制限で、以前なら外食していた料理を給食で出したいという意見が多くなったような気がします。給食に対する要望にできるだけ応えたいと思う一方、病院給食ですので安全に食事提供を行うために食品衛生の基準が定められており、提供できない料理もあります。それでも献立作成時に代替案がないか検討し、調理方法を確認しながら試作・試食を行います。提供後に患者様から「美味しかった」と感想をいただく料理、賛否両論だった料理と様々ありますが、改善が必要な場合は、スタッフ全員で再度検討し、味付けなどを調整しています。

入院中の食事は、治療を行う上で重要な役割を担っているのと同時に、患者様にとっては楽しみの1つでもあります。嗜好調査の結果や患者様からのご意見を給食に反映し、安全でおいしい食事提供ができるよう、また給食に対する満足度が向上するようにこれからも努力していきますので、よろしくお願ひいたします。



「頭を打つと脳が縮む？」

医師 野口 勝宏

みなさん頭を打った経験があると思いますが、頭を打ったら脳細胞が減るんじゃないかと心配されたことはありませんか？私はいつも心配しています。

脳震盪を起こすような頭部の打撃を受けると短期間の認知機能の混乱を起こすことは知られていますが、長期的な影響は、例えば頭を打つスポーツを何年も続けたりしたらどうなるのでしょうか？それについて調べた研究がありましたのでご紹介します。『Relationship of collegiate football experience and concussion with hippocampal volume and cognitive outcomes (大学時代のフットボール経験および脳震盪と、海馬体積および認知機能の関係)』という題名で、2014年にアメリカのJAMAという医学雑誌に掲載された論文です。

この研究では、「脳震盪と医師に診断されたことのある大学フットボール選手」「脳震盪の病歴のない大学フットボール選手」「フットボール競技歴のない健康な人」をそれぞれ25名ずつ選び、この3グループについて頭部MRIと認知機能検査を行ったそうです。

結果は、なんと、フットボール選手は脳震盪歴あり、なしの両グループ共に競技歴のないグループよりも海馬体積が小さかったそうです。さらに、脳震盪歴のある選手はなしの選手よりも海馬体積が小さかったそうです。また、フットボール選手については脳震盪歴あり、なしのグループ共に左海馬体積とフットボール競技年数の間に統計的に優位な負の相関があった、つまり、競技年数が長い程、海馬の体積が小さかったそうです。

認知機能検査の結果は、フットボール競技年数と反応時間の間に負の相関があった、つまり、競技年数が長い程、認知機能が低下していたそうです。この結果は、頭部の打撃を長期間繰り返し受け続けると、脳震盪にならなくても海馬が萎縮し、認知機能が低下することを示唆します。これからはなるべく頭を打たない生活をするよう心掛けたいと思います。

皆さまへのお知らせ

面会や外出・外泊について



新型コロナウイルス感染症も昨年末ごろには少しずつ落ち着き、当院では面会や外出・外泊の制限を徐々に緩和しつつありました。しかし今年1月中旬からオミクロン株が流行し、全国的に感染者は爆発的に増えており、この1月21日からは香川県でも蔓延防止等重点措置が実施されることが発表されました。

こうした新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、当院では、香川県内で蔓延防止等重点措置が実施されている間は、リモート面会も控えていただくことになりました。外出・外泊も見合わせていただいているところです。ウイルスを院内に持ち込まないことが、患者様の体調を守ることに繋がると考え、職員一同、感染対策には気をつけております。患者様、ご家族の方々には大変ご迷惑をおかけしており申し訳ございませんが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

三船病院 委員会活動紹介

「薬事審議委員会について」



三船病院 薬局長 直江 正保

薬事審議委員会は毎月1回、第2金曜日に医局会の終了後開催されます。委員会のメンバーは各医師と薬剤師1名で構成されDIニュースを審議資料として利用しています。検討課題は新規採用申請医薬品、後発医薬品への切り替え、在庫薬品の剤型変更、規格の追加薬品、整理薬品についてです。また医薬品在庫管理情報の共有のため、期限切れ薬品、破損薬品、使用期限の近い薬品の提示及び各医薬品メーカーやPMDA(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)からの医薬品の副作用や使用上の注意の情報等についても話し合い、委員会で決定(承認)された事柄は病棟等にも報告して共有しています。最近ではジェネリック薬品の供給体制が問題になっています。ジェネリック薬品の採用に当たって第一の基準は購入額の多い薬品(使用頻度も高い)が挙げられるためメーカーからの出荷調整になると大きな影響を受けます。最近ジェネリック薬品

専用メーカーの数社が、厚労省から製造過程での問題により出荷停止(薬品を販売できない)処分を受けています。ジェネリック薬品の積極的な使用が推奨されている中で供給が止まることは他のジェネリック薬品メーカーに変える対策ではかなり対応が困難な状況であり、やむを得ず先発薬品に戻る場合もあります。ジェネリック薬品は、薬価が先発薬品より安くなっていますが、先発薬品と同等の品質を保つよう各社努力しています。そうした中、エラーを出したため停止処分となりましたが、それは健康被害に繋がりがかねないことです。このように医薬品の動きに早急に対応して薬物療法に支障が出ないよう薬事審議委員会で対策を検討しています。今後も患者様が安心して薬物療法を継続していけるよう、委員会は機能していく所存ですのでよろしくお願いいたします。

《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリカルパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第2金曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)



【介護老人保健施設 福寿荘】

「利用者の方へお便り」

支援相談員 安藤 由佳

福寿荘には様々な郵便物が届きますが、時折、ご家族からの手紙やハガキが届きます。

コロナ禍では、利用者の方とご家族・ご親族が自由に会うことができず、お互いにお互いが心配になることも増える中で、手紙やハガキは利用者の方にとって家族の近況を確認できる一つの方法なのだと感じます。

暑中見舞いや年賀状だけでなく、結婚や出産のお知らせや日々の季節を絵ハガキにしたものも届きます。利用者の方に届ける際に一緒に読ませていただく機会がありますが、どのお便りも利用者の方の笑顔や思い出を引き出してくれるもので、受け取った方の表情はいつも嬉しさであふれているように感じます。

ハガキは、ほんの数行や一言の便りですが、そこから広がるその方との思い出話はたくさんあり、利用者の方の想いをとても感じます。また、思い出を話す中で利用者の方の新しい一面を知ることもあり、お便りが届くのを楽しみにしていることも多々あります。

お便りをくださった方に利用者の方からお返事をするのは難しいですが、機会があるときには利用者の方の想いをお伝えし、気持ちを繋げるお手伝いができればいいな、と思います。

これからもお便りが届きますように…



【三愛会コミュニティケアセンター】

「三愛会共同生活援助事業所」

管理者 精神保健福祉士 大路 健

三愛会の居住支援部門は、昭和61年の共同生活「清和荘」から始まり、現在のグループホーム「三愛会共同生活援助事業所」まで35年間、地域で支援を必要とする方々や、様々な要因で長期入院になっている方に対し、ご家族や、関係機関、法人の各部門と連携しながら支援に取り組んでいます。

施設の形態や役割は、共同生活、福祉ホーム、援護寮、退院支援施設、グループホーム、短期入所事業と、その時代の制度や、対象者のニーズに合わせて変化してきましたが、【福祉の理念に基づき、本人が望む地域での生活が実現できるよう支援していく】という方針は変えず、運営しています。

現在は共同生活援助事業(グループホーム)と短期入所事業(ショートステイ)を実施しており、長期入院者の受け皿、単身生活を目指す方の練習の場、ご家族と生活をされている方の休息の場等の役割を意識し、利用者一人ひとりに合わせた個別支援計画を作成し、関わらせていただいておりますが、支援を提供する側はどうしてもステップアップ、前に進むことを目指してしまい、また利用者の方にもそれを求めがちになってしまいます。ステップアップや前に進むことをご本人が望んでいる場合は別ですが、現状維持やたとえ後退したとしても利用者の方が前を向き、現在の状態を保っている、後退が緩やかになっている、利用者の方が、望む生活のために取り組んでいることこそが大切であると考えています。

今後も引き続き、サービスの質の向上に努め、利用者の方と共に前を向いて、たまに後ろを振り返りながら、共に歩んでいきたいと思っております。

《編集後記》

立春とは名ばかりの寒い日が続きますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。年明けから新型コロナウイルスのオミクロン株が急激に感染拡大し、気の抜けない生活が続いています。当院ではより一層気を引き締めて感染対策に力を入れております。みなさまにはご迷惑とご不便をおかけしておりますが、患者様、ご家族、関係者方々のご理解、ご協力に感謝しております。こうした状況の中でも皆さまに必要な医療や支援をしっかりと提供できるよう尽力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(三船病院相談室PSW)